

2) 天塩川の現状と課題

2-1 天塩川の概要

2-1-1 河川・流域の概要

天塩川は、我が国最北を流れる大河川で、その源を北見山地の天塩岳（1,558m）に発し、山間急流部を西北流し名寄盆地に至る。さらに流域の中核都市士別市、名寄市で剣淵川、名寄川等の支川を合わせ智東の狭窄部を流れ、天塩平野を流下する間に、多くの支川を集め、南下して、天塩町で日本海に注ぐ、流域面積 5,590km²、幹川流路延長 256km の 1 級水系である。流路内の人口は、上流部の士別市、名寄市など川沿いに形成されている平野部に集中し、流域全体で約 10 万人（H12 国勢調査、13 市町村）が生活している。

当流域は、上川・留萌・宗谷支庁の 3 市 10 町 1 村からなり、北海道北部の社会・経済・文化の基盤をなすとともに、多様な自然環境を有していることから、本水系の治水・利水・環境についての意義は極めて大きい。

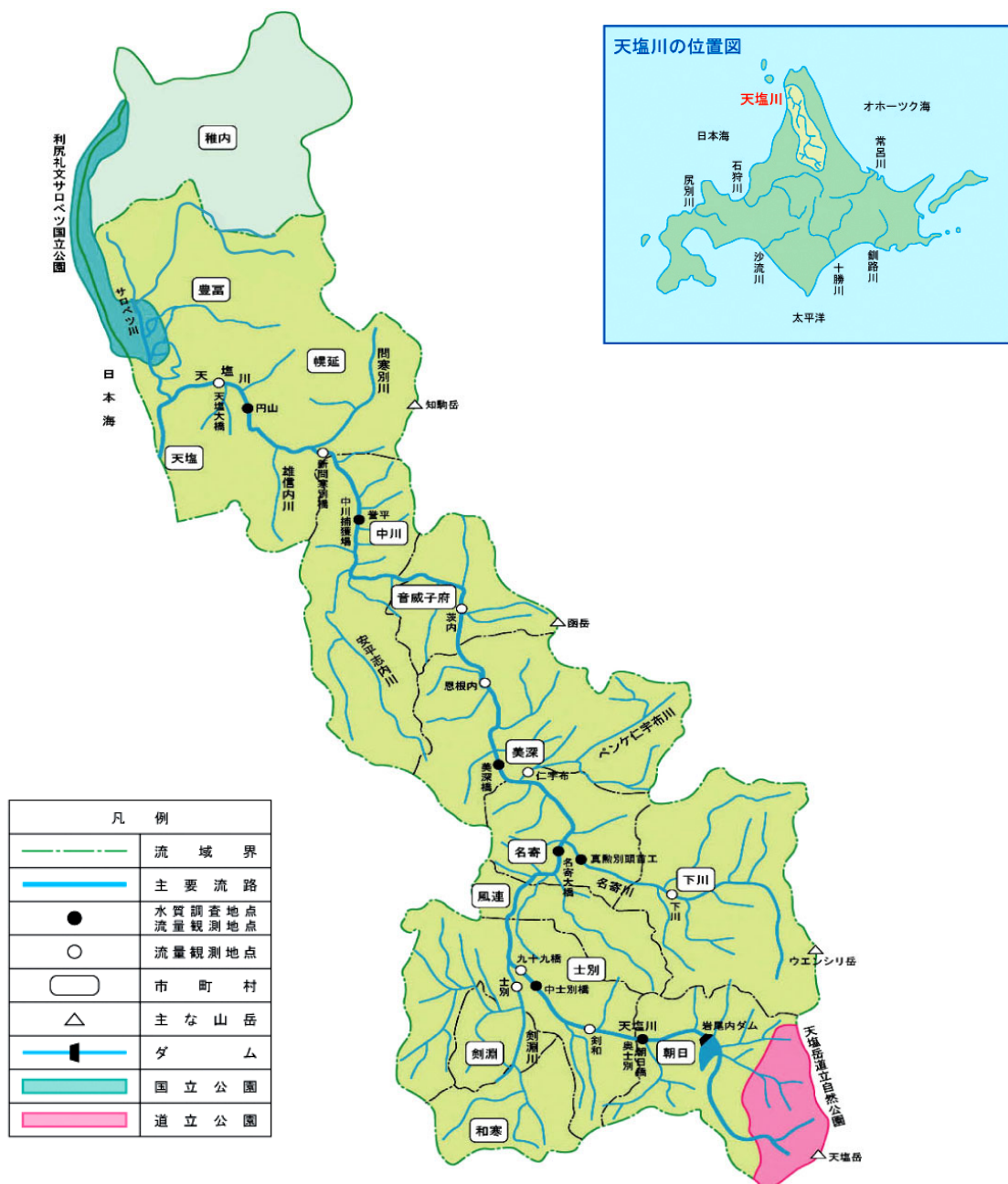


図 2-1-1 天塩川流域図

2-1-2 地 形

天塩川は、地形的に見て上、中、下流部の3地域に分けられる。

「上流部」は、源流の発する天塩岳から名寄川合流点までを指し、豊かな自然環境に恵まれた山間を流れる地域である。

「中流部」は、名寄川合流点から問寒別川合流点までを指す。名寄盆地は、オホーツク海沿岸の浜頓別から道央の富良野まで続く、“中央盆地地区”のほぼ中央に位置し、上流部の和寒町から美深町にかけて発達している。

名寄盆地の東・西にはそれぞれ、北見山地、天塩山地が走っているが、両山地とも標高は1,000m以下で、山脈状をなさずになだらかな山形を示している。

中流部から下流部にかけては、川沿いに泥炭地の分布する天塩川低地を形成している。

「下流部」は問寒別川合流点から河口までを指し、広大な畑作と酪農地帯の天塩平野やサロベツ湿原が広がる地域である。宗谷岬まで連なる宗谷丘陵が天塩山地まで延び、さらに日本海側に近づくると、宗谷丘陵の一部をなす丘陵群や台地、河谷低地などがモザイク状に分布し、河口付近ではサロベツ川を中心としてサロベツ湿地帯が広がる。

2-1-3 地 質

流域を大きく区分すると、上流部は日高帯、中流部は白亜系向斜帯、神居古潭構造帯、下流部は第三系褶曲帯が主となっている。

日高系はさらに日高東縁帯・日高中央帯・日高西縁輝緑岩帯の3帯に細分化される。流域内に含まれるのはそのうち日高中央帯と日高西縁輝緑岩帯であり、日高中央帯は粘板岩・チャートなどの堆積岩類とこれを貫く深成岩類から成る。

また、日高西縁輝緑岩帯は、主として先白亜紀の塩基性火山噴出岩類から成り、蛇紋岩を伴っているがほとんど変成岩類は発達していない。

これらの日高帯は北見山地の一部を構成している。

神居古潭構造帯では、先白亜紀の塩基性火山噴出岩類が大量に発達しているとともに、大小様々な規模の蛇紋岩が伴われている。本構造帯は、天塩山地の一部と宗谷丘陵の南東部を構成している。

白亜系向斜帯は、塩基性火山噴出岩類を全く伴わず、砂岩、頁岩およびそれらの互層を主としており、西側では天北隆起帯などの天塩山地の一部となり、東側では名寄盆地を構成している。

第三系褶曲帯では、新第三系の碎屑岩類が主体となり、天塩山地を構成する

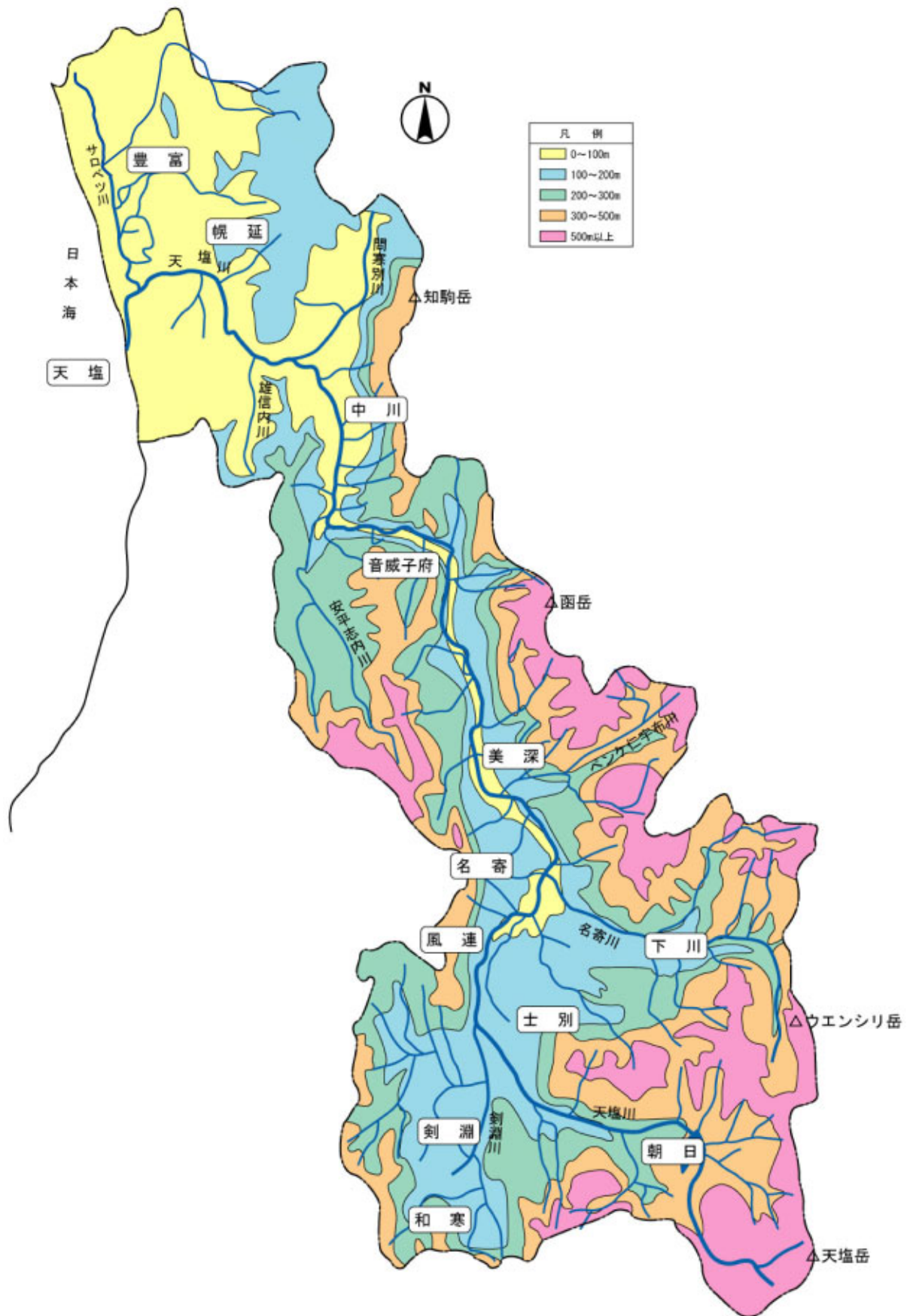
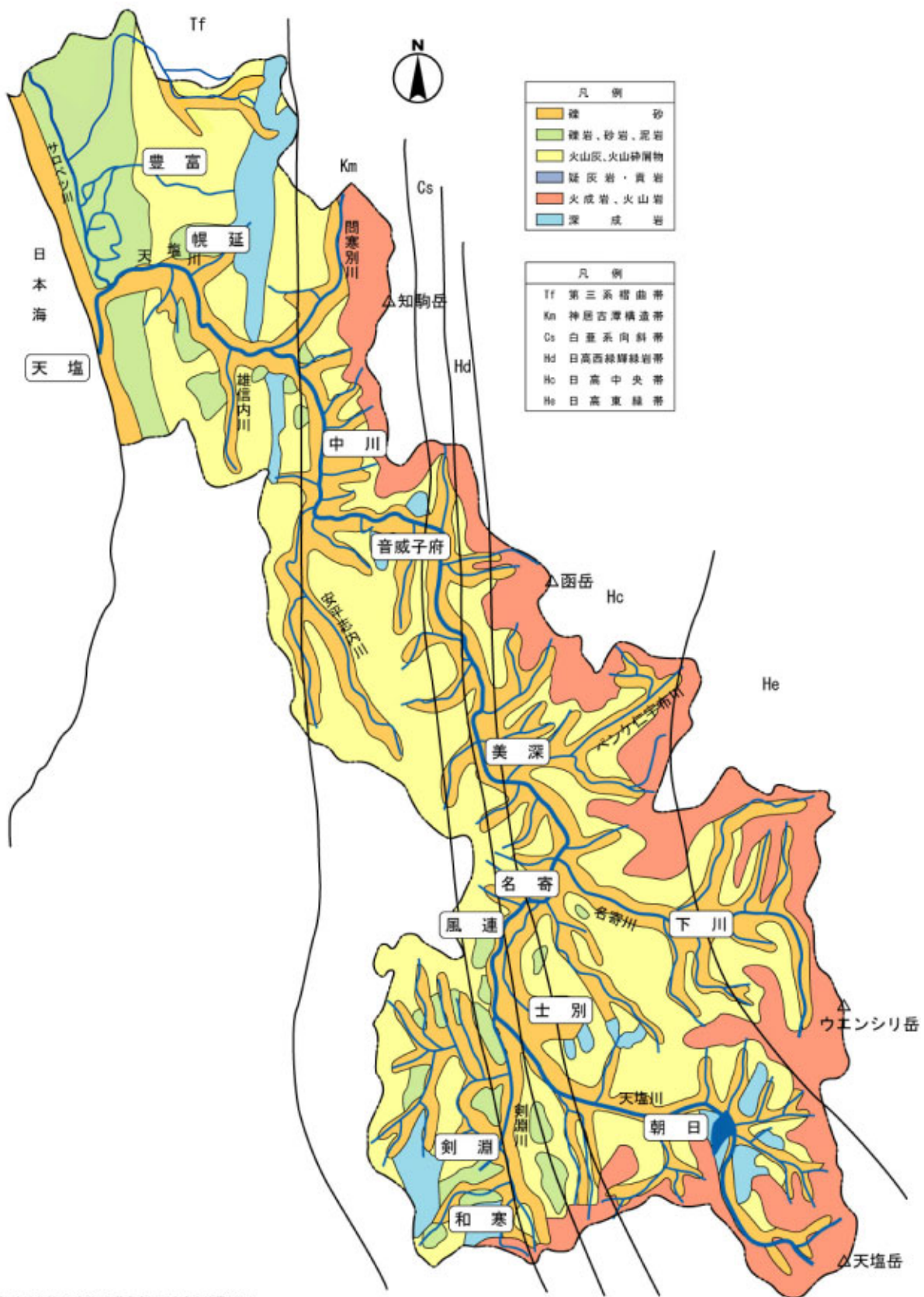


图 2-1-2 等高区分图



出典：土地分類図(衆谷・留萌支庁)-国土庁土地局(S54)
 土地分類図(上川支庁)-国土庁土地局(S52)

図 2-1-3 表層地質図

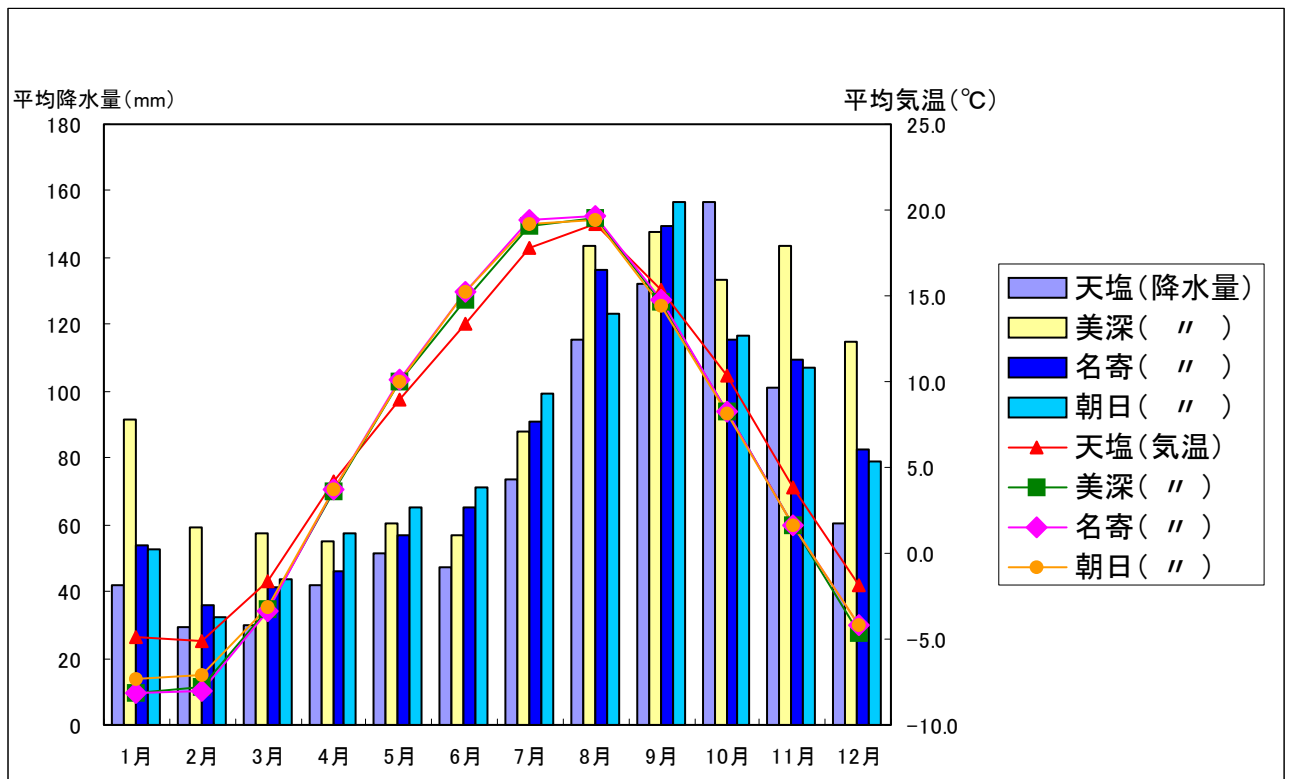
2-1-4 気候・気象

北海道はその周囲の海によって 4 つの気象区分に分類されており、天塩川流域はその中で日本海面区とオホーツク海面区に属している。

流域南部は内陸的気候であるのに対して、流域北部は海洋性気候を呈している。

北海道の気候は、地理的位置からみると、一般に温帯気候の北限あるいは亜寒帯気候の南限にあたる。冬季には大陸に蓄積された寒冷な気団が、北西季節風として運ばれ厳しい冬をもたらし、夏季には北太平洋の温暖な気団が、南東季節風として流入し暑さをもたらすが、猛暑となるのは極めて短期間である。

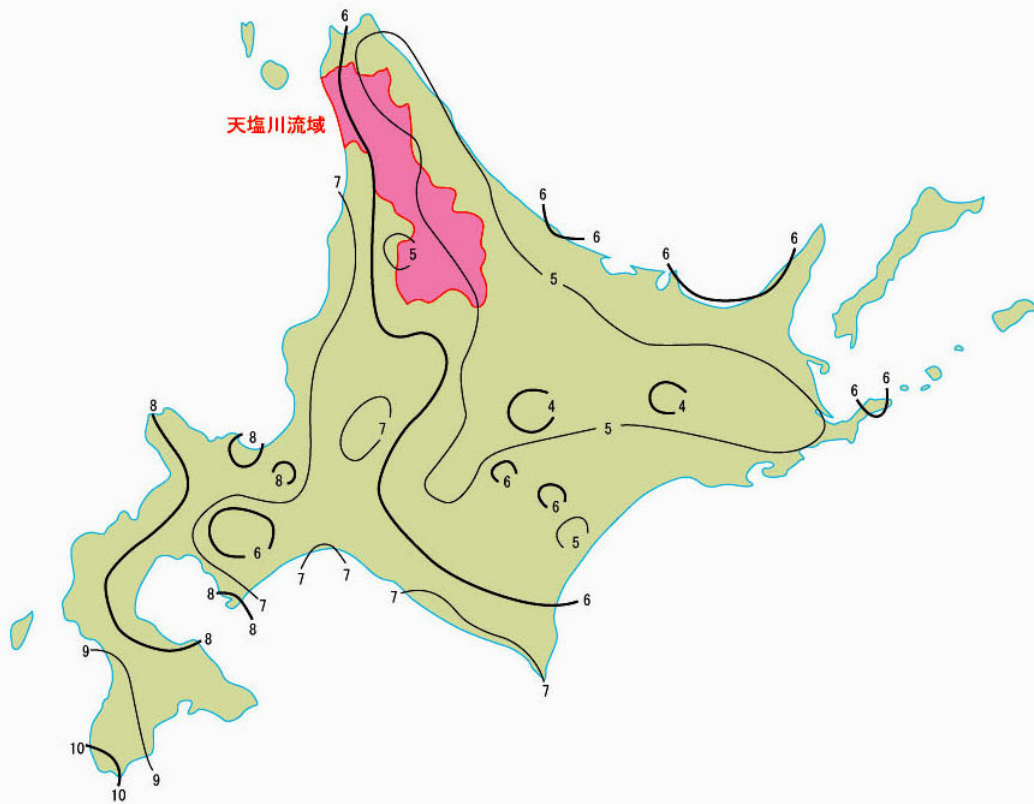
天塩川が流れる上川北部地方は、亜寒帯気候に属し、特に地理的に内陸部に位置するため、寒暖の変化が激しいことが特徴である。平地における年平均気温は 5.7～6.6℃程度であり、冬の最低気温は、-30℃程度にも達し、また夏の暑さも 30℃を越え、寒暖の差は 60℃程度にもなる。また、7月～8月の最暖気の月平均気温は 20℃程度、最寒気の1月～2月は-10℃程度である。この地方は水稻の北限地帯と言われているが、夏のごく短期間の猛暑と天塩川からの豊富な水とがこの地方の水稻を可能にしている。



出典：北海道の気象 統計期間 S63～H12 の 13 年間

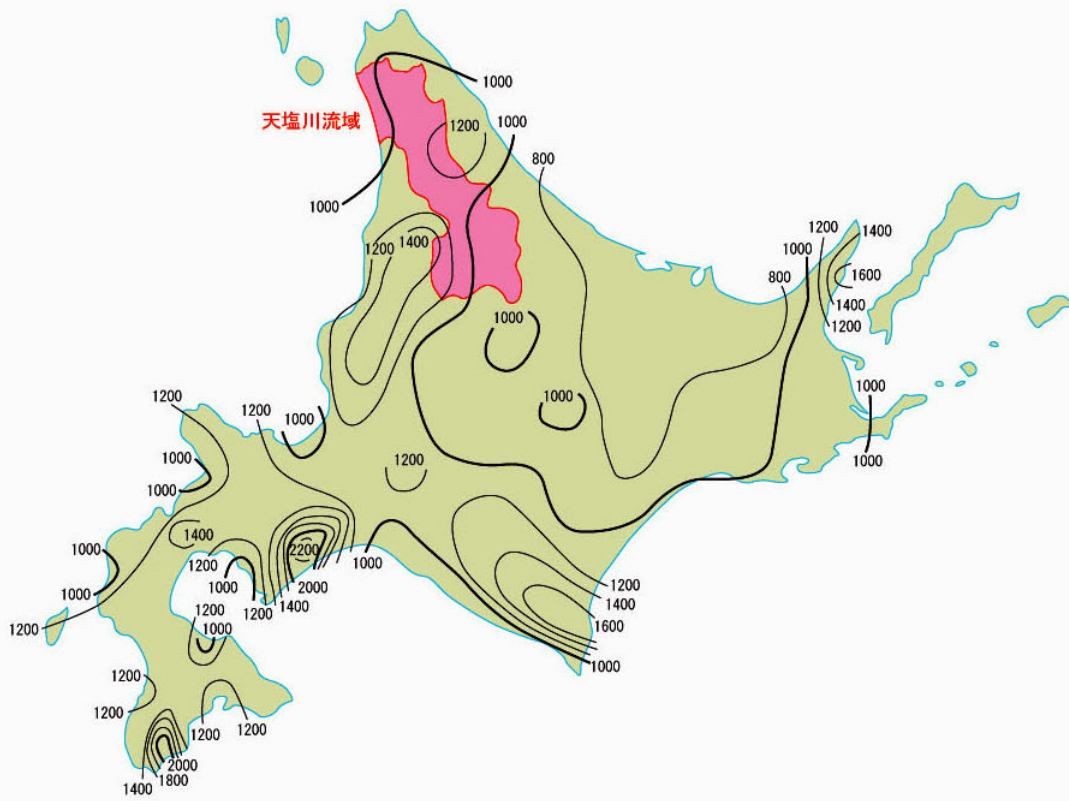
図 2-1-4 天塩川流域における主な気象観測所の平均気温・平均降水量の推移

図 2-1-5 年平均気温分布図(統計期間1979~1990 :単位°C)



資料:北海道のアメダス統計 | 1992年番

図 2-1-6 年降水量分布図(統計期間1979~1990 :単位mm)



資料:北海道のアメダス統計 | 1992年番